

地域ぐるみで災害に立ち向かおう

～自主防災組織の取り組み～

自主防災組織は、住民どうしが協力して自発的につくる“地域ぐるみで防災活動を行う組織”です。市には現在、各行政区や地区を単位として191の組織が結成されています。

市内の自主防災組織を紹介!

城河原地区自主防災会（五和町）



城河原地区自主防災会は、同地区の住民で組織する自主防災組織で、平成19年に発足。「自分たちの地域は自分たちで守る」の精神のもと、地元の小・中学校や各事業所などの各種団体、警察や消防、市消防団などと連携しながら、防災活動に取り組まれています。

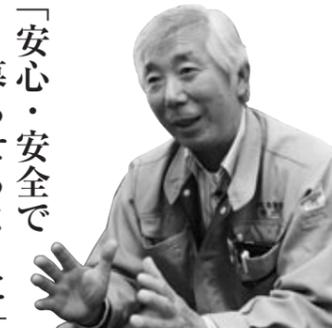
主な取り組みとしては、毎年9月に開催している防災訓練です。昨年は地区住民約100人が参加し、情報収集・伝達や避難・誘導、炊き出しなどの訓練が行われました（=写真）。また、(財)自治総合センターの助成事業を活用して、ヘルメットや誘導灯、発電機などの防災用資機材を配備しているほか、各区単位で設けられた同会の支部では独自に訓練を実施するなど、熱心に活動されています。



「安心・安全で暮らせるように」
城河原地区自主防災会
野口米仁会長

地区内にはひとり暮らしの高齢者が多くいらつしやいます。災害が起きたときは、そういった皆さんを安全に避難・誘導したいという気持ちがいちばんにあり、自主防災会が担うべき大きな役割のひとつだと考えています。

自主防災会の活動を通して、地区住民の皆さんが「自分たちの地域は自分たちで守る」という共通意識を持ち、「城河原は安心・安全に暮らしていける」という気持ちを共有していければと思っています。



自主防災組織を設立しませんか

市では、行政区や学校区単位で組織する自主防災組織の設立・運営方法について、助言など必要な支援を行っています。

また、お住まいの地域に自主防災組織があるかどうかなど詳細は、本庁・防災危機管理課または各支所担当課へお尋ねください。

【問い合わせ先】本庁・防災危機管理課 ☎ 231111

土砂災害から身を守る

一瞬にして命や財産を奪う土石流やがけ崩れ、地すべりなどの土砂災害。短時間にたくさん雨が降るときは特に注意が必要です。



ポイント 危険を感じたら、大雨警報が出たら、土砂災害警戒情報が出たら、避難勧告が出たら…

迷わず避難、すぐに避難!



- 日ごろから、がけから離れた部屋や2階で過ごしましょう。
- 深夜の集中豪雨などにより、外に出て避難ができない緊急時には、自宅内の2階または山側の反対へ避難しましょう。

ご存じですか? 土砂災害の前兆現象

土石流

長雨や集中豪雨によって、石や土砂が水と一っしょになって一気に下流に流れる現象。

- 山鳴りがする。
- 急に川の流れがにごり、流木が混ざっている。
- 雨が降り続けているのに川の水位が下がる。

がけ崩れ

長雨や集中豪雨によって、斜面が急に崩れ落ちる現象。

- がけから水が湧き出す。
- がけに亀裂が入る。
- がけから小石が落ちてくる。
- がけから木の根が切れるなどの異様な音がする。
- 樹木や電柱が傾く。

地すべり

地下水などが粘土のようなすべりやすい地面にしみ込んで、その影響で地面が動き出す現象。

- 地鳴りがする。
- 沢や井戸の水がにごる。
- 地面にひび割れができる。
- 斜面から水が湧き出す。
- 樹木や電柱が傾く。

「土砂災害警戒情報」を防災行政無線でお知らせします

熊本地方気象台と熊本県では、大雨警報発表中で土砂災害の危険性が高まったときに、住民の自主避難などの参考になるよう『土砂災害警戒情報』を発表します。

市では、『土砂災害警戒情報』が発表されたときには、市民の皆さんにいち早く情報をお伝えするため、深夜など時間帯を問わず、防災行政無線でお知らせすることとしています。皆さ

んのご理解とご協力をお願いします。

なお、『土砂災害警戒情報』は、市内10地域を「東部（本渡・有明・御所浦・倉岳・栖本・新和・五和）」と「西部（牛深・天草・河浦）」に分けて発表されますが、防災行政無線でのお知らせは、危険性が高まっている地域のみに行います。

